

おおさか医科・
歯科九条の会

今度の騙しは手ごわいぞ

安齋育郎氏が講演(大要)



安齋育郎 (あんざい・いくろう)

1940年東京生まれ。東大工学部卒業後、同大学の医学部助手となり17年間勤務する。86年に立命館大経済学部教授に。2年後、国際関係学部の教授として平和学を教える。立命館大特命教授・名誉教授。憲法9条・メッセージ・プロジェクト代表。著書に『だます心だまされる心』(岩波新書)、『語り伝えるヒロシマ・ナガサキ』(新日本出版社)、『イラク後のアメリカの戦略と世界平和』(かもがわ出版)など多数。

戦争はウソから始まる

憲法9条の改定に反対し、9条を守り生かす活動をすすめる「9条の会」が、全国の地域・職場で7000を越え、大きく広がっている。「おおさか医科・歯科九条の会」は今年の2月に2周年を迎え、賛同者1000人を目標に、現在は700人あまりの賛同を集めている。昨年11月、同会主催で安齋育郎氏(立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長)を講師に迎え開いた講演会「憲法9条・今度の騙しは手ごわいぞ」の大意を掲載する。

最大の「騙し」は戦争、国家による騙しである。イラク戦争というのは2003年に、ブッシュ大統領が「イラクのサダム・フセイン大統領が大規模な兵器を隠し持っている」という理由で、自衛のための先制攻撃を仕掛けた」といって、自衛のための戦争として始まった。しかし、イラク中探しても大量破壊兵器はついにでてこなかった。ついにCIA長官・中央情報局長官が「間違った情報で国家を戦争に導いた」ということで更迭され、連

邦議会の報告書が出た。あの戦争が嘘の理由で始まったことは世界中知っているのだが、戦争だけは終わらない。それはなぜかといえば、戦争をやると目的と戦争を始めるきっかけが違ってくる。目的が先にあるわけである。イラク戦争はこうして続いているのか、3つの理由があるといわれている。1つは、軍需産業が儲かる。ブッシュ政権は軍需政権である。第1次ブッシュ政権が発足したときの閣僚名簿のうち、31人が軍需産業あがりである。辞めさせられたラムズフェルド国防長官は、もう一つの産業であるランドコーポレーションの理事長だった。だから、ブッシュが大統領の座にいる間にできるだけたくさん武器を消費する、戦争という市場を切り開くということに忠実に実行していた。戦争をやればやるほど儲かる人々がいて、その代表者がブッシュ政権の中にあるから、戦争を早期にやめようというところにならない。これが一つの理由である。

もう一つの理由は石油。アメリカは世界で最大の石油消費国だから、自国にとっても欲しいが、アメリカは21世紀の世界戦略として中国のことを考えている。中国は、2020年には一日800万バレルの石油を使う国になるだろうと予想されていて、日本よりも遙かに石油多消費国になる。そのうち、今、

中国が手にしている石油は、ただでは到底足りなくなるので、中東の石油に手を下さざるを得ない。そのときアメリカが支配していれば、中国に対して非常に強い政治的・経済的立場にたてるというわけである。

改憲論議エスカレート

いつか、輸入にあたってまずアメリカドルを買ってこないといけない。ドルが商品になるということなので、アメリカ政府はドル紙幣を印刷するだけで、世界の通貨がアメリカの銀行に集まる手品のような仕掛けがあるわけである。

政府与党が日本国憲法を、どう変えようとしていたのかという、主として2つ。1つの眼目は「自衛軍の認知」。憲法9条2項、「前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。国の交戦権はこれを認めない」を、これを認めるというわけである。この時、問題になるのは、「前項の目的」とは何かということ。憲法9条1項を見ると、「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、

油取引がドルからユーロに変わってしまった。ほとんどドル離れしている。アメリカの21世紀経済戦略の根幹にもかかわるというので、もう一回イラクで戦争をやって原油取引をユーロからドルに引き直させるというところをやったわけである。だからこの戦争は、ア

メリカにとっては21世紀世界戦略と経済戦略の根幹がかかっている。「アメリカの兵隊やイラク人が何人死のうが、そんなことほかもっちゃいられない」というので、戦争が終わらなくなってしまうというわけである。

この憲法をつくったわけである。しかし、48年から49年にかけて中国大陸に中国共産党政権ができ、そして49年9月にはソ連が戦後4年目にしてもう原爆実験を成功させてしまった。しかもその翌年の50年に朝鮮戦争が起こったわけである。それで日本に駐留していた米軍のかなりの部分が、朝鮮半島に戦争に行ってしまう。このときに戦後の民主主義の高揚を背景にして、日本で革命などが起こると大変だということで、一転して日本に武装をさせるようになった。50年に警察予備隊ができ、2年後の52年に保安隊という名前に変えられ、更に2年後の54年に自衛隊という名前に変えさせられた。

「戦後レジームをぶち壊す」という安倍前総理の理想を受け継ぐべきだと考えるグループは与党の中に政策集団として動き始めているし、まだこれが消え失せたわけではない。

情報隠す騙しの手口

もう一つは、「憲法改正ハードルの除去」というわけである。憲法を改定するのは大変で、衆議院と参議院で議員の3分の2以上が賛成して改正案をつくり、国民投票にかけて過半数をとらないと変えられない。中曽根総理大臣のときは、圧倒的に政府与党が多数を占めていたにもかかわらず、憲法を改定することができなかった。そこで、とりあえず憲法96条を変えて変えやすく

しようというわけである。色々な要求が政府与党の中にあるが、それらを持ち込むほど憲法改正で不利になるから今はあまり無理をしない。憲法を変えやすくしてから、改めて変えることにしようというわけである。

ご承知の通り、政府の新憲法案の中には「環境保護の権利」や「プライバシー保護の権利」というものが盛り込まれている。そうすると、環境保護やプライバシーの保護

の方がいいではないか、と聞いて聞かされて全体に○を付ける人がいるかもしれない。アメ玉をいくつか用意してあるというわけである。

3枚のカードがあり、真ん中が赤いカードで、これが二、三の！でひっくり返し、赤いカードはどれですか？という実に単純なマジックがある。ひっくり返すと真ん中のカードが赤くなる。仕掛けは、右上だけ赤いというカードを

挟んだわけである。人間は、部分を見て全体が赤いと思いがち。真ん中に赤いカードがあります」と言った途端にみんな頭の中にそういう状況を感じ浮かべるわけである。憲法を変えようというときには都合のいい情報だけを流して、都合の悪い情報は隠しておく。部分を見せて全体が都合のいい話であるように思わせる、という手口がよく使われる。詐欺師というのはまさにその名人で、都合のいい話をして、全体が都合のいいように思い込ませる達人である。それにみんな騙されてしまっている。